

知識集約型社会において世界をリードする国へ（イメージ）

検討用資料

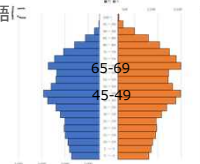
参考資料 3
 科学技術・学術審議会総合政策特別委員会
 （第28回）（R元.7.23）配布資料

- ・ 社会構造が資本集約型から知識集約型へ大転換（モノからコトへ）
- ・ 米中の技術覇権争いやブレグジットなどの地政学的な状況の変化
- ・ デジタル革命によりデータの持つ価値が格段に向上

デジタルでの覇権争いと
 ルールに基づいた国際秩序

SDGsが世界の共通言語に

GAFAM



少子高齢化が急激に進む我が国

注：人口推計（2019年6月報）【総務省統計局】を基に文部科学省作成

日本の強み

- ・ 基礎研究から産業技術まで厚みのある先端科学技術力
- ・ 安定した国家システム、支援国の長期的な発展を促す開発援助
- ・ ものづくりや医療の現場におけるきめ細かなデータの蓄積
- ・ 質の高い相対的に安定した科学技術協力パートナーとしての地位 等

に対する世界からの期待と信頼

少子高齢化を背景とした今後の人口推移を考慮すると、**研究知識集約型社会に向けた社会システムの変革**を行うためには、**今手を打たなければ間に合わない決断の分水嶺**を迎えており、**日本の持てる人材・資源を総動員し、大きく変わることができれば、世界をリードできる千載一遇のチャンス**。そのためには、**「知・情報」の中核を担う大学・国研等への集中投資が必要不可欠**。

Society 5.0の実現

- ・ 「知・情報」がベースとなる新たなコトづくりが、生産性向上や高付加価値の創出を実現する社会
- ・ 科学技術イノベーションの進展により、すべての世代、すべての地域が活躍するオールインクルーシブ、人間中心のイノベーションを実現

